

2004年度
事業報告書

学校法人南山学園

事業報告書

1. 法人の概要

1) 学生・生徒数一覧表 (2005年5月1日現在)

南山大学

(1) 大学院・博士前期課程・修士課程

研究科	学生数	収容定員	
文学研究科	5	0	(募集停止)
外国語学研究科	7	0	(募集停止)
経済学研究科	22	30	
経営学研究科	28	30	
人間文化研究科	91	76	
国際地域文化研究科	43	40	
総合政策研究科	35	60	
数理情報研究科	82	160	
合計	313	396	

(2) 大学院・博士後期課程

研究科	学生数	収容定員
文学研究科	14	24
経済学研究科	2	15
経営学研究科	2	15
数理情報研究科	5	20
合計	23	74

(3) 専門職学位

研究科	学生数	収容定員
法務研究科	89	100

(4) 学部

学部	学生数	収容定員	
文学部	3	0	(募集停止)
人文学部	1,460	1,277	
外国語学部 (~1999)	4	0	(募集停止)
外国語学部	1,817	1,487	
経済学部	1,141	922	
経営学部	1,062	860	
法学部	1,170	932	

総合政策学部	1, 507	1, 240
数理情報学部	902	810
合計	9, 066	7, 528

(5) 外国人留学生別科 (正規生) 127名

南山短期大学

学 科	学生数	収容定員
英 語 科	471	450

南山高等学校

区 分	生徒数	収容定員
男 子 部	591	600
女 子 部	595	600
合 計	1, 186	1, 200

南山国際高等学校

生徒数	収容定員
392	600

聖霊高等学校

生徒数	収容定員
707	840

南山中学校

区 分	生徒数	収容定員
男 子 部	615	600
女 子 部	605	600
合 計	1, 220	1, 200

南山国際中学校

生徒数	収容定員
268	240

聖霊中学校

生徒数	収容定員
573	480

学園合計 (別科を除く)

学生・生徒数	収容定員
14, 308	13, 108

2) 役員・専任職員数 (2005年5月1日現在)

[役員・協議員数]

理事長・副理事長

	現 員	定 員
理事長	1	1
副理事長	1	1

理 事

	現 員	定 員
理 事	15	15～19

監 事

	現 員	定 員
監 事	2	2

評議員

	現 員	定 員
評議員	35	33～41

[専任教育職員数]

南 山 大 学

学 部	専任教育職員					計
	学 長	教 授	助教授	講 師	助 手	
人 文 学 部	(1)	44	23	6	0	73
外 国 語 学 部		37	21	9	0	67
経 済 学 部		14	5	2	1	22
経 営 学 部		11	7	2	0	20
法 学 部		9	5	2	0	16
総合政策学部		28	16	11	1	56
数理情報学部		17	6	10	0	33
法務研究科		13	2	0	0	15
合 計	(1)	173	85	42	2	302

南山短期大学

専任教育職員					計
学 長	教 授	助教授	講 師	助 手	
(1)	13	4	7	0	24

南山高等・中学校

	校 長	副校長	教 諭	養護教諭	講 師	計
男 子 部			51	1	3	55
女 子 部	(1)	(1)	51	1	4	56
合 計	(1)	(1)	102	2	7	111

南山国際高等・中学校

校 長	学 監	教 諭	養護教諭	講 師	計
1	0	29	1	4	35

聖霊高等・中学校

校 長	副校長	教 諭	養護教諭	講 師	計
1	(1)	59	2	4	66

南山学園専任教育職員数合計 538

()の数字は内数

[専任事務職員等数]

区 分	専任職員	教務助手	専任嘱託	実験助手	計
法 人 事 務 局	24		5		29
南 山 大 学	141 (助手1含む)	1	37		179
南 山 短 期 大 学	14				14
南 山 高 等 学 校	8			2	10
南 山 国 際 高 等 学 校	3			1	4
聖 霊 高 等 学 校	6				6
南 山 中 学 校	7				7
南 山 国 際 中 学 校	2		1		3
聖 霊 中 学 校	1		1		2
合 計	206	1	44	3	254

2. 事業の概要

【学園全般】

1. 理事長基本方針および南山学園職員憲章の制定

これまで各学校の基本理念について、内容は同じでも表現方法において若干の違いが見られたのを、理事長基本方針で、「キリスト教世界観に基づき学校教育を行う」という建学の理念と、その下での「人間の尊厳のために」という教育のモットーに統一することとした。これに伴い、学校法人南山学園寄附行為第3条も「この法人は、キリスト教世界観に基づき、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行ない、人間の尊厳を思考する真に国際的な人材を育成することを目的とする。」と改めた。また、本学園は、これまでそれぞれの学校が主体的に運営することを基本に置いてきたが、南山学園として一体感のある教育の理念と特徴を社会に対して一層明らかにしていくこととした。さらに、南山学園教育・研究の根底となる姿勢として、優れた学習指導を通して「Tolerance」と「勇気」を育成することにあることが強調された。また、南山学園構成員の規範とも言うべき南山学園職員憲章を制定した。この職員憲章は、南山学園構成員による、社会に対する南山学園の責任と使命を宣言したのもでもあり、理事長基本方針とともに2005年4月にホームページ上で公表することとした。

2. 設置申請・届出および認可等

南山大学は、2004年度から新たに専門職大学院である法務研究科ならびに人間文化研究科・国際地域文化研究科・総合政策研究科・数理情報研究科を設置した。これからの大学院は、大学のステータスとしてではなく、実際に志願者を確保することと、卒業生の進路を確保することが重要な課題といえる。南山短期大学では、教育研究の充実と発展を目指して、2005年度から入学定員を50名増の250名とすることとした。また、聖霊高等・中学校は、財政基盤の安定化のため2004年度入学者からの学年進行により、授業料月額1,000円増、高校入学金10,000円増の改定を行った。なお、名古屋聖霊短期大学は、2005年3月をもって閉学し、その使命を南山大学の発展へと引き継ぐこととなった。名古屋聖霊学園の史料は、2005年度には名古屋聖霊短期大学史料集を発行する予定である。ちなみに、名古屋聖霊短期大学卒業生の皆さんの対応窓口は、法人事務局総務事務室となっている。

3. 申請準備および将来計画

南山大学は、ビジネススクールの設置および人間文化研究科・総合政策研究科の博士後期課程の設置について、2006年4月開設に向けて準備を始めた。また、聖霊高等・中学校は、創立時の精神に基づき中高一貫校として生徒の教育を完成させるために、2006年度から中学校の収容定員を増やし、その分高等学校の収容定員を

減じる予定である。南山大学では、学部学科の新設・改組改編が一段落し、大学院の新設・改組の申請手続も峠を越えることができた。これからの南山大学にとって重要なことは、大学を取り巻く環境がおおきく変わっていく中で、これまでの改革をレビューしながら、南山大学がもつ特性を更に明確にすることである。その上で、20年後の将来計画もにらみながら2005年度内に中期プランを策定し、実行のプロセスに入ることが重要課題となっている。また、名古屋聖霊短期大学の閉学に伴う南山大学瀬戸キャンパスの再整備利用計画や、名古屋キャンパスでの新棟建設および山手通りへのアプローチ計画の準備などが重要な課題となっている。なお、南山大学以外の学校も、20年後の将来計画について今後2年程度をかけて協議することとしている。

4. 校舎等耐震工事および施設・設備の整備等

南山学園では、学生・生徒の安全確保のため2003年度に耐震診断を行い、診断結果に基づいて順次校舎等の改修・補強工事を行っている。法人本部は、南山学園発祥の建物であるライネルス本館を補強し移転した。南山学園講堂についても耐震工事を行ったことで継続使用が可能となった。南山大学は、名古屋キャンパスで耐震工事を実施した。また、南山高等・中学校（女子部）は、耐震上大きな問題があることから、2006年度使用開始予定で校舎を建替えることとし、工事にとりかかった。新校舎建築に際しては、常盤会（同窓会）・友の会等から多額の寄付を始めとした資金援助をいただくことができた。この外にも耐震診断はすべての学校で行われており、緊急性の観点から次年度以降も耐震工事を行う予定である。耐震工事以外では、南山大学の瀬戸キャンパスで数理情報学部棟が稼働、高岳キャンパスも稼働した。その外、新学生用マンションの建設も行われた。南山高等・中学校（男子部）では、テニスおよびハンドボール兼用コート場を新設し使用開始した。気がかりなことは、Nox・PM法による排ガス規制によって既存のスクールバスが使用できなくなるため、南山大学瀬戸キャンパス、南山国際高等・中学校、聖霊高等・中学校で、2004年度から3年間にわたり19台の購入が必要となることである。2004年度においては、7台を購入。更に、2005年度においては合計9台を購入する予定である。スクールバスの購入費は財政的にも負担増となっているため、それぞれの学校毎に必要な台数を購入していたのを改め、3つの学校が協力することとした。この結果、2003年度では35台だったのを、2004年度は32台、2005年度は28台まで削減できる予定となっている。

5. 南山学園内における連携推進の強化

南山学園では、学園内における連携を強化するため学園内連携推進協議会を設置し、南山高等・中学校、南山国際高等・中学校、聖霊高等・中学校から南山大学への2005年度および2006年度推薦入学試験の見直しを行った。推薦入学試験の見直しについては、南山短期大学も含め今後とも継続して協議していく予定である。南山

学園としては、南山大学を中心として教育の連携を深めるため、推薦入学試験の見直し問題に限らず、南山学園としての10年一貫教育のあり方、高等・中学校における教育職員の交流と採用、施設の共同利用、学校行事の連携など幅広く継続的に検討することとしている。

6. 危機管理体制の具体化と個人情報保護に対する取り組み

「危機管理体制ガイドライン」および「南山学園における大地震に際しての対応原則」が2003年に制定された後、各学校では具体的なマニュアル作成や、防災用品の整備、防災訓練の充実などに積極的に取り組んでいる。また、南山大学および南山短期大学において「個人情報保護に関するガイドライン」および関係規程を制定し、これに習って他の学校でも同様の取り組みを行う予定となっている。昨今では企業における危機管理意識の欠落が社会的な問題となっているが、関係者にご迷惑をおかけすることのないように、地震や個人情報問題に限らず広く継続して危機管理問題を取り扱うこととしている。

7. 学園創立75周年記念事業準備

南山学園は、2007年には創立75周年を迎える。そのため、南山学園75周年記念事業実行委員会を設置し、記念事業の確定並びに75周年記念誌の編纂準備を行っている。特に、75周年誌編纂については、各学校の協力を得ながら順調に進行しており、学園内史料データベースへの入力やオーラルヒストリーの実施が行われている。南山学園創立75周年事業が、単なるお祝い行事に終わることなく、これからの南山学園を考える機会となるよう取り組んでいきたい。

8. 学園内会計・業務監査の実施

2004年度の会計・業務監査は、南山大学瀬戸キャンパス、名古屋聖霊短期大学および聖霊高等・中学校を対象として実施され、結果について会計・業務監査委員会で報告するとともに、学園内で公表した。監査結果を公表することで、監査対象以外の学校における同種の問題の改善にも取り組むように指導している。そのため、2004年度の監査でも、必ず前年度の監査で公表された項目に対する取り組み状況の確認も行っている。なお、2004年度監査の基本方針は、「将来構想計画に対する意識高揚」を掲げて行われた。また、名古屋聖霊短期大学については、2004年度末で閉学するにあたり、重要な課題が残されていないかの点検が行われた。来年度は、監事監査や公認会計士監査とも連携することで機能を高めることとしている。

【南山大学】

1. 教育・研究の拠点形成

2004年度は、総合政策学部から申請した「アジアを重視した国際教育の質的向上」が、文部科学省が実施する「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）に採

択された。また、法科大学院から申請した「IT活用による教育学習機会の充実－法律基礎科目群の効率的自学自習の実現について－」が、同省が実施する「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に採択された。ただ、21世紀COEプログラムは残念ながら不採択という結果になった。この結果を真摯に受けとめ、南山大学の研究レベルをどのように向上させていくのかについて、抜本的な検討を行わなければならない。さらに2005年度の文部科学省教育支援プログラムの申請に向けて、2004年度に学内公募を行った。

2. FD（授業改善検討）活動等

南山大学では、学生の授業評価報告書について、教員からの提出率が90%台後半を維持できている。また、2004年度春学期から法科大学院において授業評価も始まり、2005年度からはその他の研究科においても授業評価制度を取り入れる検討をはじめた。このため、大学院では主体的に授業評価の仕組みを整備していくこととした。なお、予備的なデータ収集のため、2004年度秋学期に各研究科において大学院生による授業評価を試験的に行っている。この外、2004年度学長方針で外国語教育の見直しが提唱され、検討がはじめられている。さらに、2005年度から新たに教育・研究支援事務室において幅広くFD関連の作業を集約すること、「学長方針」をホームページで公開し、職員のみならず学生および広く社会に対して、学長の大学運営に対する基本方針を公開するようにしたこと、教養教育をテーマに外部評価を実施したこと、学生に将来の夢や目標を持たせると同時に、職業観を育てるためのキャリア教育を実施することとしたことなど、様々な取り組みを行っている。

3. 学外連携と地域社会への貢献

豊田工業大学との間で、施設の相互利用はもとより、単位互換制度を開始すると共に、研究会の開催などを通して研究者間の交流が始まった。「大学コンソーシアムせと」への積極的な協力、高大連携の推進、学園内単位校との連携強化についても、継続して進めている。また、人類学博物館の体制を強化し、従来の教育・研究に加えて、地域社会への貢献を果たすための重要な窓口の一つとして位置づけた。教育研究活動における学外機関や地域社会との連携は、世界に通用し、かつ地域に貢献する「グローバルな大学」をめざす上で、きわめて重要である。今後もさまざまな連携の可能性を模索し、一定の段階で総括を行いたい。

【南山短期大学】

1. 自己点検・評価と学生による授業評価

南山短期大学は、私立短期大学基準協会提案のマニュアルを基本として、第三者評価への対応を前提に、自己点検・評価報告書を作成することとし、教育内容、学生支援、社会的活動、管理運営、財務等の10分野40項目、130件以上にわたる

点検・評価を行った。報告書は2004年度の決算を含めて資料・分析等を作成するため、2005年6月の発行に向けて編集作業を行っている。また、学生による授業評価については、授業の質・内容・構成・明快さ・方法等に関する事項、教育機器使用の授業、研究プロジェクト・実技科目・パフォーマンスを行う科目等に関する項目、受講態度や学習に関する学生の自己評価の項目を含めて総計36項目にわたるもので、この集計結果に対する各授業担当者からのコメントをまとめて「南山短期大学 学生による授業評価報告書 2004」を作成することとした。

2. FD（授業改善検討）活動等

南山短期大学は、前述の通り「自己点検・評価報告書」を作成し、「学生による授業評価」を実施しているが、今後さらによりよい教育を提供して学生の満足度向上を目指すために、個別授業の問題点・改善策等を教員間で共有し検討する必要があると、2005年度から定期的に「FD会」を開催していくことを提案した。また、入学定員50名増員に関連して、現行の3系列の再編を含めて4系列の可能性を検討した。具体的な系列名および教育内容については、次年度更に検討する。この外、南山大学との単位互換の検討も始まっている。

【名古屋聖霊短期大学】

名古屋聖霊短期大学は、2005年3月末をもって閉学となった。1970年に、旧名古屋聖霊学園が名古屋市中区三の丸から瀬戸市に移転するとともに、家政専攻と食物栄養専攻を持つ家政学科を置く名古屋聖霊短期大学が設置されて以来35年間、卒業生9,999人を社会に送り出し、女子教育に貢献してきた。もともと、旧名古屋聖霊学園と南山学園の創立者は同じであることから、1995年にカトリック教育を守り、発展させることを目指して合併することとなった。この合併を機に、21世紀に向けた南山学園構想が策定され、2000年4月には名古屋聖霊短期大学に隣接して南山大学瀬戸キャンパスが開設された。そして、2005年4月から、名古屋聖霊短期大学の使命は、南山大学の発展へと引き継がれた。

【南山高等・中学校（男子部）】

1. 生徒の学習と生活実体に関するアンケート調査の実施

南山高等・中学校（男子部）は、生徒の学習と生活実体に対して広範囲のアンケート調査を実施した。これをもとに、一層実体に即した指導の組み立てが出来ると考えている。また、聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養に関する、中1保護者のアンケート結果では、宗教教育は評価されていることが判明した。

2. イタリア・キリスト教文化研修旅行

南山高等・中学校（男子部）は、進路指導のために大学から教員を招いて直接生徒

に授業を行ない、効果をあげることができた。また、イタリア・キリスト教文化研修旅行に 34 名が参加し、生徒ならびに保護者から高い評価を受けた。また、2004 年度からスクールカウンセラーが着任し、カウンセリングが始まったことで、生徒のメンタル面でも支援できるようになった。

【南山高等・中学校（女子部）】

1. カリキュラム・生徒指導の強化

南山高等・中学校（女子部）では、2005 年度高 1 から情報科目をより情報化社会に対応した内容に変更した。また、2005 年度から高 3 について選択科目を文系・理系で新設して生徒の選択科目の範囲を広げ、さらに高 3 文系の選択科目を増設した。このような結果、旧カリキュラムよりも生徒の希望に添えるカリキュラムとすることができた。生徒指導に関しては、これまで以上にきめ細かに行っており、補導に関するトラブルも発生していない。なお、新校舎建築のために仮設校舎へ移転しての教育活動には制約もあるが、現在のところ引越しも、工事も順調である。

2. 教育職員の研修及び研究の奨励

南山高等・中学校（女子部）では、教育職員の研修及び研究の奨励をしており、スクールカウンセラーより、心の問題を抱える生徒への対応についての講習を受けた。生徒指導に生かされるように今後とも努力を重ねていきたい。また、昨今社会問題化しつつある学校への不審者侵入について、昭和警察からの協力を得て対策訓練等を実施し、生徒の安全確保にも努力している。

【南山国際高等・中学校】

1. 南山国際高等・中学校の方向性

南山国際・高等中学校は経常的な支出超過が続いており、生徒受入れ条件の緩和や小人数クラスの見直し等、財務改善の努力を懸命に行っているところである。南山国際・高等中学校は帰国生徒と外国人生徒のみを受入れる日本唯一の特色ある学校であり、トヨタ自動車を始めとする多国籍企業を多数抱える中部地区にとって、重要な意味を持つ学校といえる。南山学園として帰国生徒教育を継続するためにも、地方公共団体や企業から一層の理解と協力を御願ひしていきたい。

2. 学習指導

これまで同様、小人数クラス編成できめ細かい教育を実施するとともに、個人の能力に応じて個別指導も実施している。今年度からは、教科授業の一部を英語で実施（イマージョン教育）して、さらなる語学力の向上と国際性の涵養をはかった。さらに、2005 年度からは、南山大学と連携して高校 3 年生が大学での講義を受講する計画も検討され、実現することとなった。

【聖霊高等・中学校】

1. 学習指導の見直し

聖霊高等・中学校では、学習指導の見直しを継続的に議論しており、今年度新たに取り入れた業者テスト（スタディー・サポート）によって、生徒の学力実態だけでなく学習環境も客観的なデータとして明らかになった。今後は具体的な学校づくりのプロセスを明らかにし、ビジュアルで独自の学校作りプランの作成段階に入る。また、1年で4時間完結リレー講座方式による「生命」「人権」「平和」など6つの小テーマを全員が学習し、2年生では生徒が自分の興味・関心をもとに10のゼミに分かれて活動した。学習活動としては特に自分の研究テーマを深め、プレゼンテーション能力を高めることに留意した。その他、土曜セミナーを年4回実施する体制が定着し、南山大学・卒業生・父母・市民などの協力により、延べ127の講座が用意でき、総合学習の発展に寄与している。

2. オーストラリア、マウント・セント・ジョゼフ校との国際交流

聖霊高等・中学校では、オーストラリア、ビクトリア州、マウント・セント・ジョゼフ校との国際交流を行っており、同校へ生徒30名(中学3年生14名・高校1年生16名)が参加した。2週間の学校体験及び3日間のシドニー観光など例年通りの内容で実施された。現地でのパフォーマンスや宗教行事にあたる「Hiroshima Day」参加のために綿密な準備もなされ、非常に満足できる滞在であった。参加者の研修後の評価では、授業体験やホストファミリーでの交流に対する満足度が高く、外国語学習やその後の国際交流への関心が深まっている。一方、マウント・セント・ジョゼフ校から本校へは、29名の生徒が引率教員6名と共に来日し、教員との交流も意欲的に行われた。

3. 財務の概要

学校法人は、「私立学校法」の規程に基づき「学校法人会計基準」（以下「基準」という）に従って作成した決算書を、文部科学省へ提出することが義務付けられている。

今般 2004 年度南山学園の財政に関する資料として、上記決算書の中から、「資金収支計算書」、「消費収支計算書」、「資金収支内訳表」、「消費収支内訳表」、「貸借対照表」並びに、「基準」では直接触れられていないが、「財産目録」の 6 表（ダイジェスト版）をここに公開する。

① 「資金収支計算書」

「資金収支計算書」は、「支払資金」（現預金）の年間の動きを表している。「収入の部」では、学生・生徒からの入学金や、授業料である「学生生徒等納付金収入」、入学検定料等の収入である「手数料収入」、国・地方公共団体からの補助金等である「補助金収入」等が計上されている。南山学園では、南山大学が 2000 年度に名古屋キャンパスの既存学部の改組並びに瀬戸キャンパスに新規 2 学部の増設、2004 年度には専門職大学院である法務研究科並びに人間文化研究科、国際地域文化研究科、総合政策研究科、数理情報研究科を開設している。この間、学生数も順調に増加し、「学生生徒等納付金収入」は 2000 年度に比して、1 割アップとなっている。「資産売却収入」は、資金運用方法として銀行預金以外に有価証券での運用をおこなっており、その売却収入が主たるものである。なお、「基準」では、有価証券にかかる運用について総額表示することとされており、有価証券購入にかかる支出額は支出の部の「資産運用支出」に表示してある。前受金収入は、新入生からの入学金、授業料等である。

「支出の部」では、学校法人の場合、「人件費支出」が相当のウェイトを占めている。消耗品や、光熱費、修繕費などの一般経費については、「基準」で教育部門に要する経費と管理部門に要する経費を区分表示することとされており、それぞれ「教育研究経費支出」「管理経費支出」として計上されている。建物や構築物等の取得額は「施設関係支出」に計上している。南山学園では、2004 年度に男子大学生用マンションの建設や、法人事務局・南山大学・南山短期大学での耐震工事等、更に 2005 年度の完成を目指して南山高等・中学校（女子部）校舎の新築工事に着手している。支出予算は、教育研究の環境整備が主たる目的であり、その実現のために日常業務における無駄な経費の削減について全学的に取り組んでいる。

尚、学校会計では、予算を重要視し、決算について予算との対比でみることになっており、「資金収支計算書」、「消費収支計算書」で、予算・決算・差異（予算—決算）という形式で作成されている。

②「消費収支計算書」

「消費収支計算書」は、「資金収支計算書」ではつかめない学校法人の運営状況を知るための資料である。「消費収支計算書」は「帰属収入」「基本金組入額」「消費収入」「消費支出」という構成になっている。

「帰属収入」は「資金収支計算書」の「収入の部」と一部同じあるが、異なる点は、その年度に学校法人に帰属する収入のみに限定しているという点であり、「資金収支計算書」で収入としてあげられている「借入金収入」や「前受金収入」等は除外されている。「資産売却差額」は、2004年度は土地、有価証券の売却に係る差益分である。

支出については、「基本金組入額」と「消費支出」に分けられる。「基本金」は、「基準」独特の考え方であり、「資金収支計算書」の「施設・設備関係支出」や、将来施設設備等を取得するための「積立金」等を言う。「消費支出」は、その年度に消費してしまう経費（人件費、教育研究経費、管理経費、支払利息等）である。「基準」の考え方では、まず「帰属収入」から「基本金組入額」を控除し、その差額を「消費収入」として捉え、この「消費収入」に対して「消費支出」が少なければ「当年度消費収入超過額」、逆に多ければ「当年度消費支出超過額」ととらえている。

2004年度においては、南山高等・中学校（女子部）の校舎新築に伴う旧校舎の取壊しを行い、また2004年度で閉学となった名古屋聖霊短期大学の設備関係の廃棄等により基本金の取崩しが例外的に発生したため、施設設備の新規取得額は16億円であるが「基本金組入額」は7億円となっている。

また、「消費支出」の「教育研究経費」、「管理経費」には減価償却費（2004年度18億円）が含まれている。「資産処分差額」は、先述した校舎等の取壊しに係る除却損等である。

上記の結果、2004年度決算における「消費収支差額」は、2億円の「消費収入超過」となっているが、冒頭でも述べたとおり、過去5年間でかなりの大型事業に取り組んだ結果、「繰越消費収支差額」は、2004年度末で78億円の「消費支出超過」となっている。学校法人は永続的存在を前提としており、そのためにまず「帰属収入」から、「基本金に組入れる」ことが義務付けられている。従って、大規模な事業を実施した年度では、一時的に「消費支出超過」となることは止むを得ない面があるが、経営基盤の安定のためには「消費収入超過」体制への転換が求められている。

③「資金収支内訳表」「消費収支内訳表」

これらは上記①②についての、南山学園の各学校別の内訳表である。「資金収支内訳表」は、収入の部「借入金収入」、支出の部「施設関係支出」までが表示され、「消費収支内訳表」は「消費収入の部」「消費支出の部」までが表示されている。

④「貸借対照表」及び「財産目録」

「貸借対照表」は、会計年度最終日（3月31日現在）の「資産」、「負債」、「基本金」、

「消費収支差額」の有高を、前年度との比較（増減）で表示している。「有形固定資産」のうち、「土地」、「図書」、「建設仮勘定」以外は、償却対象資産で減価償却されるためその額が前年度より減額となるが、2004年度はこれ以外に上記②で述べた施設設備の取壊しがあるため、建物等では減価償却額以上に減少額が大きくなったが、自己資本（基本金＋消費収支差額）は前年度より9億円の増加となっている。

財産目録は、「貸借対照表」における「資産総額」を「基本財産」と「運用財産」に区分し、その他、「負債総額」、さらに「基本金」「消費収支差額」を「正味財産」として表示している。

以上をもって、当学園の2004年度における財政状況についての概要説明を終える。南山学園は、「キリスト教世界観に基づき学校教育を行う」という建学の理念と、その下での「人間の尊厳のために」という教育のモットーを掲げ人間の尊厳を尊重かつ推進する人材育成を目指しているが、その実現のためには財政基盤の確立も大変重要な役割を負っていることを構成員一同しっかりと認識し、今後とも誠実に努力していく所存である。

以 上

資 金 収 支 計 算 書

平成16年4月 1日から

平成17年3月31日まで

(単位：円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	12,481,138,000	12,505,874,800	△ 24,736,800
手数料収入	742,911,000	756,122,235	△ 13,211,235
寄付金収入	345,766,000	429,853,484	△ 84,087,484
補助金収入	2,361,648,000	2,471,032,146	△ 109,384,146
資産運用収入	306,004,000	374,306,765	△ 68,302,765
資産売却収入	10,042,061,000	7,557,119,190	2,484,941,810
事業収入	202,352,000	203,093,167	△ 741,167
雑収入	493,416,000	500,257,655	△ 6,841,655
借入金等収入	133,380,000	133,369,400	10,600
前受金収入	2,818,137,000	2,929,551,030	△ 111,414,030
その他の収入	3,232,424,000	3,339,768,582	△ 107,344,582
資金収入調整勘定	△ 3,645,576,000	△ 3,481,019,939	△ 164,556,061
前年度繰越支払資金	5,700,328,000	5,700,328,314	
収入の部合計	35,213,989,000	33,419,656,829	1,794,332,171
支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	10,334,897,000	9,870,129,949	464,767,051
教育研究経費支出	3,426,146,000	3,017,064,551	409,081,449
管理経費支出	1,236,676,000	1,118,076,425	118,599,575
借入金等利息支出	84,682,000	84,042,014	639,986
借入金等返済支出	555,131,000	555,089,950	41,050
施設関係支出	1,336,910,000	1,247,005,774	89,904,226
設備関係支出	387,963,000	373,883,021	14,079,979
資産運用支出	10,281,001,000	7,583,181,116	2,697,819,884
その他の支出	2,860,949,000	2,734,092,542	126,856,458
	(26,500,000)		
[予備費]	43,500,000		43,500,000
資金支出調整勘定	△ 157,921,000	△ 172,370,018	14,449,018
次年度繰越支払資金	4,824,055,000	7,009,461,505	△ 2,185,406,505
支出の部合計	35,213,989,000	33,419,656,829	1,794,332,171

消 費 収 支 計 算 書

平成16年4月 1日から

平成17年3月31日まで

(単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	12,481,138,000	12,505,874,800	△ 24,736,800
手数料	742,911,000	756,122,235	△ 13,211,235
寄付金	350,915,000	437,457,411	△ 86,542,411
補助金	2,361,648,000	2,471,032,146	△ 109,384,146
資産運用収入	306,004,000	374,306,765	△ 68,302,765
資産売却差額	234,611,000	192,297,386	42,313,614
事業収入	202,352,000	203,093,167	△ 741,167
雑収入	493,431,000	500,730,723	△ 7,299,723
帰属収入合計	17,173,010,000	17,440,914,633	△ 267,904,633
基本金組入額合計	△ 822,882,000	△ 707,588,421	△ 115,293,579
消費収入の部合計	16,350,128,000	16,733,326,212	△ 383,198,212
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	10,183,948,000	9,752,958,676	430,989,324
教育研究経費	5,083,794,000	4,640,746,217	443,047,783
管理経費	1,418,332,000	1,299,308,253	119,023,747
借入金等利息	84,682,000	84,042,014	639,986
資産処分差額	963,988,000	711,684,253	252,303,747
徴収不能引当金繰入額	3,655,000	3,646,577	8,423
[予備費]	(69,500,000) 500,000	/	500,000
消費支出の部合計	17,738,899,000	16,492,385,990	1,246,513,010
当年度消費収入超過額	0	240,940,222	/
当年度消費支出超過額	1,388,771,000	0	/
前年度繰越消費支出超過額	8,044,803,000	8,044,803,443	/
翌年度繰越消費支出超過額	9,433,574,000	7,803,863,221	/

資金収支内訳表

平成16年4月 1日から

平成17年3月31日まで

(単位：円)

収入の部											
科目	学校法人	南山大学	南山短期大学	名古屋聖霊短期大学	南山高等学校	南山国際高等学校	聖霊高等学校	南山中学校	南山国際中学校	聖霊中学校	総額
学生生徒等納付金収入	0	9,778,307,050	568,843,100	91,243,700	519,760,600	212,319,000	267,812,250	608,302,100	158,880,000	300,407,000	12,505,874,800
手数料収入	0	696,967,091	25,846,380	688,744	1,119,683	1,235,150	1,410,000	21,796,795	1,966,392	5,092,000	756,122,235
寄付金収入	5,000,000	249,499,000	5,137,624	14,200,000	90,375,186	530,000	33,797,000	20,020,474	0	11,294,200	429,853,484
補助金収入	0	1,042,542,711	58,047,453	33,600	436,291,048	129,431,430	307,924,486	296,921,000	75,928,000	123,912,418	2,471,032,146
資産運用収入	26,475,810	229,071,620	47,770,727	32,462,905	10,718,314	2,556,219	6,883,894	10,992,770	1,755,891	5,618,615	374,306,765
資産売却収入	7,555,453,295	1,317,180	0	0	119,700	62,483	0	124,380	42,152	0	7,557,119,190
事業収入	0	163,548,545	21,750,840	0	0	0	9,802,595	0	0	7,991,187	203,093,167
雑収入	39,743,008	119,582,345	55,642,176	50,272,766	91,623,004	5,908,935	3,603,775	61,488,511	6,975,168	65,417,967	500,257,655
借入金等収入	0	0	0	0	60,318,800	12,953,000	60,097,600	0	0	0	133,369,400
収入の部合計	7,626,672,113	12,280,835,542	783,038,300	188,901,715	1,210,326,335	364,996,217	691,331,600	1,019,646,030	245,547,603	519,733,387	24,931,028,842
支出の部											
科目	学校法人	南山大学	南山短期大学	名古屋聖霊短期大学	南山高等学校	南山国際高等学校	聖霊高等学校	南山中学校	南山国際中学校	聖霊中学校	総額
人件費支出	287,173,751	5,820,550,300	518,823,649	318,528,334	884,320,199	268,620,023	505,804,452	690,886,163	202,301,506	373,121,572	9,870,129,949
教育研究経費支出	0	2,368,609,611	100,418,115	35,278,139	189,786,222	36,274,841	47,960,752	175,594,062	25,013,804	38,129,005	3,017,064,551
管理経費支出	187,692,127	772,077,969	36,886,106	19,978,488	12,038,836	15,917,705	22,169,101	20,923,460	10,594,868	19,797,765	1,118,076,425
借入金等利息支出	0	19,408,116	13,876,129	3,665,917	15,981,559	22,811,430	3,916,043	986,448	215,470	3,180,902	84,042,014
借入金等返済支出	0	111,100,000	72,880,000	80,500,000	86,443,234	68,159,796	95,716,868	0	0	40,290,052	555,089,950
施設関係支出	486,087,961	550,235,077	95,055,800	3,706,500	67,331,105	0	4,195,534	36,973,550	0	3,420,247	1,247,005,774
設備関係支出	1,884,750	302,070,321	10,454,938	893,638	3,817,334	986,662	49,232,861	2,297,900	1,644,721	599,896	373,883,021
支出の部合計	962,838,589	9,944,051,394	848,394,737	462,551,016	1,259,718,489	412,770,457	728,995,611	927,661,583	239,770,369	478,539,439	16,265,291,684

消費収支内訳表

平成16年4月 1日から

平成17年3月31日まで

(単位：円)

消費収入の部											
科目	学校法人	南山大学	南山短期大学	名古屋聖霊短期大学	南山高等学校	南山国際高等学校	聖霊高等学校	南山中学校	南山国際中学校	聖霊中学校	総額
学生生徒等納付金	0	9,778,307,050	568,843,100	91,243,700	519,760,600	212,319,000	267,812,250	608,302,100	158,880,000	300,407,000	12,505,874,800
手数料	0	696,967,091	25,846,380	688,744	1,119,683	1,235,150	1,410,000	21,796,795	1,966,392	5,092,000	756,122,235
寄付金	5,170,000	252,083,689	5,254,145	14,527,967	91,774,348	1,029,783	35,003,050	21,020,474	299,755	11,294,200	437,457,411
補助金	0	1,042,542,711	58,047,453	33,600	436,291,048	129,431,430	307,924,486	296,921,000	75,928,000	123,912,418	2,471,032,146
資産運用収入	26,475,810	229,071,620	47,770,727	32,462,905	10,718,314	2,556,219	6,883,894	10,992,770	1,755,891	5,618,615	374,306,765
資産売却差額	192,294,276	530	0	0	1,118	316	0	1,129	17	0	192,297,386
事業収入	0	163,548,545	21,750,840	0	0	0	9,802,595	0	0	7,991,187	203,093,167
雑収入	39,749,008	119,608,518	55,642,176	50,690,061	91,646,604	5,908,935	3,603,775	61,488,511	6,975,168	65,417,967	500,730,723
帰属収入合計	263,689,094	12,282,129,754	783,154,821	189,646,977	1,151,311,715	352,480,833	632,440,050	1,020,522,779	245,805,223	519,733,387	17,440,914,633
基本金組入額合計	△ 384,092,620	△ 975,586,557	△ 239,745,260	388,302,513	690,785,612	△ 55,334,872	△ 104,712,433	15,108,206	2,491,195	△ 44,804,205	△ 707,588,421
消費収入の部合計	△ 120,403,526	11,306,543,197	543,409,561	577,949,490	1,842,097,327	297,145,961	527,727,617	1,035,630,985	248,296,418	474,929,182	16,733,326,212
消費支出の部											
科目	学校法人	南山大学	南山短期大学	名古屋聖霊短期大学	南山高等学校	南山国際高等学校	聖霊高等学校	南山中学校	南山国際中学校	聖霊中学校	総額
人件費	286,769,111	5,674,200,500	555,641,289	324,129,913	879,455,364	270,319,863	504,470,202	683,503,416	201,896,599	372,572,419	9,752,958,676
教育研究経費	0	3,491,945,469	167,718,622	86,503,457	234,010,879	190,248,983	106,650,242	217,318,666	87,940,698	58,409,201	4,640,746,217
管理経費	216,744,045	888,042,671	45,803,550	22,727,211	15,180,872	26,354,970	24,616,940	23,535,468	15,932,002	20,370,524	1,299,308,253
借入金等利息	0	19,408,116	13,876,129	3,665,917	15,981,559	22,811,430	3,916,043	986,448	215,470	3,180,902	84,042,014
資産処分差額	151,212,757	17,752,799	195,755	179,961,121	180,191,708	39,246	8	182,330,809	50	0	711,684,253
徴収不能引当金繰入額	0	3,520,417	87,840	0	0	0	0	0	0	38,320	3,646,577
消費支出の部合計	654,725,913	10,094,869,972	783,323,185	616,987,619	1,324,820,382	509,774,492	639,653,435	1,107,674,807	305,984,819	454,571,366	16,492,385,990

貸 借 対 照 表

平成17年3月31日現在

(単位：円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	53,687,912,905	54,220,021,900	△ 532,108,995
有形固定資産	43,987,830,493	44,724,107,194	△ 736,276,701
土地	12,846,200,509	12,851,616,277	△ 5,415,768
建物	23,001,940,149	23,275,259,845	△ 273,319,696
構築物	1,035,748,209	1,140,905,091	△ 105,156,882
教育研究用機器備品	1,059,129,000	1,525,670,144	△ 466,541,144
その他の機器備品	86,345,868	105,601,542	△ 19,255,674
図書	5,733,123,023	5,758,051,470	△ 24,928,447
車輛	152,244,585	67,002,825	85,241,760
建設仮勘定	73,099,150	0	73,099,150
その他の固定資産	9,700,082,412	9,495,914,706	204,167,706
借地権	6,747,790	6,747,790	0
電話加入権	10,917,288	10,917,288	0
長期貸付金	575,881,397	637,953,100	△ 62,071,703
施設利用権	143,647,057	151,060,671	△ 7,413,614
退職給与引当特定資産	378,024,259	378,024,259	0
第2号基本金引当特定預金	1,370,000,000	1,180,000,000	190,000,000
その他の引当特定預金	30,000,000	0	30,000,000
第3号基本金引当特定資産	7,184,864,621	7,131,211,598	53,653,023
流動資産	16,706,956,348	15,732,446,311	974,510,037
現金預金	7,009,461,505	5,700,328,314	1,309,133,191
未収入金	1,157,363,039	1,319,567,210	△ 162,204,171
貯蔵品	7,074,975	4,344,709	2,730,266
短期貸付金	398,332	5,258,832	△ 4,860,500
有価証券	8,412,796,240	8,671,087,914	△ 258,291,674
立替金	1,268,781	1,467,739	△ 198,958
前払金	118,593,476	30,391,593	88,201,883
資産の部合計	70,394,869,253	69,952,468,211	442,401,042

負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	4,060,601,450	4,570,920,223	△ 510,318,773
長期借入金	1,875,792,068	2,268,939,568	△ 393,147,500
退職給与引当金	2,184,809,382	2,301,980,655	△ 117,171,273
流動負債	4,423,994,304	4,419,803,132	4,191,172
返済期限が一年以内の長期借入金	398,786,900	427,359,950	△ 28,573,050
未払金	155,607,446	139,917,822	15,689,624
前受金	2,929,551,030	2,898,928,498	30,622,532
預り金	940,048,928	953,596,862	△ 13,547,934
負債の部合計	8,484,595,754	8,990,723,355	△ 506,127,601
基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	60,034,272,099	59,603,336,701	430,935,398
第2号基本金	1,370,000,000	1,180,000,000	190,000,000
第3号基本金	7,184,864,621	7,131,211,598	53,653,023
第4号基本金	1,125,000,000	1,092,000,000	33,000,000
基本金の部合計	69,714,136,720	69,006,548,299	707,588,421
消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	7,803,863,221	8,044,803,443	△ 240,940,222
消費収支差額の部合計	△ 7,803,863,221	△ 8,044,803,443	240,940,222
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	70,394,869,253	69,952,468,211	442,401,042

学校法人南山学園財産目録 [2005年3月31日現在]

(単位 円)

I . 資産総額			70,425,101,036	(11) 電話加入権	209 回線	10,917,288
内 1 . 基本財産			41,330,840,293	(12) 施設利用権	11 件	143,647,057
2 . 運用財産			29,094,260,743	(13) 長期貸付金	740 口	606,113,180
II . 負債総額			8,514,827,537	(14) 未収入金	諸口	1,157,363,039
III . 正味財産			61,910,273,499	(15) 貯蔵品	諸口	7,074,975
				(16) 短期貸付金	3 口	398,332
				(17) 前払金	諸口	118,593,476
I . 資産			70,425,101,036	(18) 立替金	16 口	1,268,781
1 . 基本財産			41,330,840,293	II . 負債		8,514,827,537
(1) 土地	353,467.42 m ²		11,343,306,708	1 . 固定負債		4,090,833,233
(2) 建物	202,866.35 m ²		22,020,479,924	(1) 長期借入金	36 口	1,875,792,068
(3) 構築物	514 件		1,015,356,620	(2) 引当金		
(4) 建設仮勘定	1 件		73,099,150	ア) 退職給与引当金	8 口	2,184,809,382
(5) 図書				イ) その他の引当金	5 口	30,231,783
ア) 図書	963,567 冊		3,902,690,517	2 . 流動負債		4,423,994,304
イ) 学術雑誌	18,254 種類		1,187,759,168	(1) 返済期限が1年以内の長期借入金	37 口	398,786,900
ウ) 視聴覚資料	11,235 種類		642,673,338	(2) 未払金	諸口	155,607,446
(6) 教具・校具及び備品	33,633 点		1,145,474,868	(3) 前受金	12,879 口	2,929,551,030
2 . 運用財産			29,094,260,743	(4) 預り金	諸口	940,048,928
(1) 現金・預金	諸口		7,009,461,505			
(2) 積立金	諸口		1,400,000,000			
(3) 第3号基本金引当資産	諸口		7,184,864,621			
(4) 有価証券	諸口		8,412,796,240			
(5) 退職給与引当特定資産	1 口		378,024,259			
(6) 土地	136,977.96 m ²		1,502,893,801			
(7) 建物	15,900.86 m ²		981,460,225			
(8) 構築物	24 件		20,391,589			
(9) 車輜	44 台		152,244,585			
(10) 借地権	71,339.58 m ²		6,747,790			